

令和 5 年 度

運営に関する計画



最終評価

令和 6 年 3 月

大阪市立矢田北小学校

1 学校運営の中期目標

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○令和7（2025）年度の教育アンケート項目「楽しく学校に通っている」に、肯定的に答える児童の割合を92%以上にする。R4 84. 7%

○令和7（2025）年度の教育アンケート項目「学校のきまりを守っている」に、肯定的に答える児童の割合を92%以上にする。R4 91. 9%

○令和7（2025）年度の教育アンケート項目「相手の気持ちを考えて行動できる」に肯定的に答える児童の割合を88%以上にする。R4 85. 4%

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和7（2025）年度の小学校学力経年調査の結果、国語・算数の全24観点のうち、**16**観点以上が大阪市の平均を上回るようにする。

R4（8観点）（4年国3 4年算1 6年国1 6年算3）

○令和7（2025）年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を**85%以上**にする。

R4 49. 1%

○令和7（2025）年度の教育アンケートの「外で遊んだり、運動したりすることが好きである」の項目について、肯定的に答える児童の割合を90%以上にする。

R4 73. 5%

○「手洗い・（うがい）週間」を実施し、アンケートの手洗い・うがいチェックで「せっけんで手を洗った」と答える児童の割合を98%以上にする。R4 91. 4%

【学びを支える教育環境の充実】

○令和7（2025）年度の教育アンケート項目「日々の授業の中で、パソコンやタブレットを使い、**学習することができている。**」に肯定的に答える児童の割合を92%以上にする。R4 88. 4%

○ゆとりの日については、週1回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては1日以上設定する。

R4 88. 2%

○令和7（2025）年度の教育アンケート項目「進んで読書をしている」に、肯定的に答える児童の割合を70%以上にする。R4 54. 8%

○令和7（2025）年度の教育アンケート項目「学校は、家庭・地域等と連携・協働した教育を推進している。」に肯定的に答える保護者の割合を90%以上にする。

R4 93. 4%

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小学校）

○令和５年度小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を **87%以上**にする。
R4 74.5%

○令和５年度末校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
6人→6人

○令和５年度末校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
R4 16.7%

学校の年度目標

○令和５年度末校内調査の教育アンケート項目「楽しく学校に通っている」に、肯定的に答える児童の割合を88%以上にする。 R4 84.7%

○令和５年度末校内調査の教育アンケート項目「学校のきまりを守っている」に、肯定的に答える児童の割合を90%以上にする。 R4 91.9%

○令和５年度末校内調査の教育アンケート項目「相手の気持ちを考えて行動できる」に肯定的に答える児童の割合を86%以上にする。 R4 85.4%

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小学校）

○令和５年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、**40%以上**にする。 R4 32.0%

○令和５年度の小学校学力経年調査における国語及び算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より **0.05ポイント**向上させる。

○令和５年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を **80%以上**にする。 R4 70.4%

○令和５年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を **60%以上**にする。 R4 49.1%

○令和５年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を **75%以上**にする。
R4 73.5%

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小学校）

○学習者用端末を活用した家庭学習を週1回以上実施し、ICTを活用した教育を推進する。

○「ゆとりの日」を週に1回設定・実施し、教職員の働き方改革を進める。

R4 88. 2%

学校の年度目標

○学習者用端末でスクールライフノートの「心の天気」を1日1回以上入力し、月間使用率をあげ、児童の心情や生活の状態を可視化し、児童理解を深め、指導に生かす。

○令和4年度末校内調査の教育アンケート項目「進んで読書をしている」に、肯定的に答える児童の割合を60%以上にする。

R4 54. 8%

○教育アンケート項目「学校は、家庭・地域（見守り活動、読書活動支援、地域交流行事等）等と連携・協働した教育を推進している。」に肯定的に答える保護者の割合を85%以上にする。

R4 93. 4%

3 本年度の自己評価結果の総括（令和5年）

今年度はコロナ前の学校生活に完全に戻り、活動的な1年となった。重点としてきた「学力保障」・「集団の育成」に向けた取組を進める中で、学力向上や規範意識の向上など、一定の成果もあった。しかし、不登校の児童が増加するなどの課題もある。

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標(小学校)

○令和5年度小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を87%以上にする。

⇒ 未達成(74.5%→80.8%) 3年(89.3) 4年(77.8) 5年(77.8) 6年(78.3)

○令和5年度末校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

⇒ 未達成(4.05→4.17→8.97) 6人→6人→14人

○令和5年度末校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

⇒ 未達成(50.0→40.0) - 10.0 5名中2名は改善したが、新たに8名増加

毎学期いじめアンケートを実施した他、日々の学級指導による担任による声かけ、タブレットによる相談機能の活用等により、未然防止、早期発見、早期解決に努めた。軽微なものをすばやく発見し、すぐ対応することでいじめ重大事案にならないように努力している。経過観察が必要な案件もあるが、無事解決に至っている。

現在不登校・不登校傾向のある児童は全体で14名と、昨年度より8名増加した。改善する児童もいるが、新たに登校しにくくなる児童もいる現状である。保護者の考え方も多様化し、「無理に行かせません」「学校へ行かせる意味がない」と様々な価値観があるので、対応に苦慮している。また、家庭環境が安定せず、引き続き関係機関と協力し、見守りを続けていかなければならない児童も多く在籍している。高学年に進級し、「学校を休む」=「学習の遅れ」という負のスパイラルに陥ってしまうとさらに不登校傾向が悪化するため、今後、スクールカウンセラーやSSW、区役所の子どもサポートネットなど、関係機関との連携を深め、よりよい支援を探りつつ支援を続けていく。加えて、外国にルーツのある児童も増えつつあり、言語の壁で、学力保障に支障をきたすことが懸念される。

学校の年度目標

○令和5年度末校内調査の教育アンケート項目「楽しく学校に通っている」に、肯定的に答える児童の割合を88%以上にする。

⇒ 達成(94.7%→84.7%→91.0%) + 6.3

○令和5年度末校内調査の教育アンケート項目「学校のきまりを守っている」に、肯定的に答える児童の割合を90%以上にする。

⇒ 達成(92.4%→91.9%→92.4%) + 0.5

○令和5年度末校内調査の教育アンケート項目「相手の気持ちを考えて行動できる」に肯定的に答える児童の割合を86%以上にする。

⇒ 未達成(88.6%→85.4%→84.7%) - 0.7

「楽しく学校に通っている」の肯定的回答が上がったことは、大変嬉しく感じる。日頃より教職員が児童の気持ちに寄り添い、楽しい学校になるよう集団作りに取り組んだ成果であると考え。また、「きまり」に関しては、生活目標の設定やあいさつ運動等、ルールを守ることについて、その意味や自分の行動について振り返るよう指導した。あいさつについては、向上したが、きまりを守らない部分も少しずつ増えてきている。今後も道德教育や人権教育、課内実践等を通して、「相手の気持ちを考えて行動すること」や「心を耕す教育」を推進していく。次年度も継続して取り組み、本当の意味で行動に移せる児童の割合を増やすことを目指す。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小学校）

○令和５年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、40%以上にする。

⇒ 達成 (33.5% → 32.0% → 42.5%) + 10.5

6年 (30.4) 5年 (51.9) 4年 (55.6) 3年 (32.1)

○令和５年度の小学校学力経年調査における国語及び算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.05ポイント向上させる。

⇒ 未達成

6年国 (+0.06) ○ 5年国 (+0.04) × 4年国 (+0.05) ○

⇒ 達成

6年算 (+0.39) ○ 5年算 (+0.17) ○ 4年算 (+0.20) ○

○令和５年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

⇒ 未達成 (70.4% → 69.7%) - 0.07

6年 (43.4) 5年 (66.6) 4年 (72.2) 3年 (96.4)

○令和５年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を60%以上にする。

⇒ 未達成 (77.2% → 49.1% → 80.8%)) + 31.7

6年 (78.2) 5年 (77.8) 4年 (77.8) 3年 (89.3)

○令和５年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を75%以上にする。

⇒ 未達成 (74.1% → 73.5% → 69.7%)) - 3.8

6年 (73.9) 5年 (74.1) 4年 (55.6) 3年 (75.0)

「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」については、大きく伸びた。授業の中で話し合う場面を多く取り入れた成果であるとする。今後も「主体的・対話的で深い学び」を意識した学習活動を進めていく。

国語及び算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較した結果、算数に関しては、3学年向上できた。国語については、1学年未達成であったが、向上している。引き続き、個に応じた丁寧な指導を続けるとともに授業力の向上に取り組む。

理科に関しては、実験・観察等を丁寧に行い、「発見する喜び」「予想する期待感」を求めるように授業を工夫してきたが、高学年になるほど、結果が悪くなってしまった。来年度は、理科教育推進校として、理科補助員が配置されることとなった。理科補助員と連携し、実験・観察の準備を効率的に行い「なぜだろう」「どうしてだろう」の疑問について、じっくり考える時間を確保し、効果的な実験・観察の時間としたい。また、校内自然環境を整備し、生き物に対する興味関心を喚起させ「生物多様性」や自然保全の大切さを実感させる取り組みを進め、理科の面白さを追求していく予定である。

外国語（英語）に関しては、どの学年も大幅にアップした。楽しく英語に触れる機会等を増やし、C-NETとの連携を深め、授業を改善した成果であるとする。

運動に関しては、なわとび集会やランランタイム、中学校の先生による指導等の取り組みにより、成果が出た。一輪車や竹馬の整備等、運動できる環境の整備も引き続き、進めていく。

学校の年度目標

○令和5年度の小学校学力経年調査の結果が、国語算数の全24観点のうち、50%以上の観点が大阪市の平均を上回るようにする。

⇒ 未達成(6観点) (5年国3 5年算1 6年国1 6年算1)

○教育アンケートの「外で遊んだり、運動したりすることが好きである」の項目について、肯定的に答える児童の割合を87%以上にする。

⇒ 未達成(91.6%→91.9%→89.0%) - 2.9

○「手洗い週間」を実施し、手洗いチェックで「せっけんで手を洗った」と答える児童の割合を1学期のアンケートの結果より2%向上させる。

⇒ 達成(94.7%→95.1%) + 0.4

参考「ぶくぶくうがい」(87.2%→79.6%) - 7.6

参考「安全に過ごす」(95.6%→97.9%) + 2.3

学力については、今後も研究教科を設定し、教育センターや教育委員会のアドバイスを受けながら、授業力の向上に努めたい。また、矢田北タイムや漢字検定、図書館の充実、読書活動（読み聞かせ）やデジタルドリルの活用をさらに進め、基礎基本の定着に取り組む。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小学校）

○学習者用端末を活用した家庭学習を週１回以上実施し、ＩＣＴを活用した教育を推進する。

⇒ 達成 毎日タブレットを持って帰らせた。家庭学習については、できていない学年もある。

○「ゆとりの日」を週に１回設定・実施し、教職員の働き方改革を進める。

⇒ 達成 毎週金曜日に設定し、帰るように努めた。参考（８８．２％→８２．４％）－５．８

ICTの活用に関しては、月間使用率１００％で概ね活用されている。しかしながら、ICTを活用した家庭学習に関しては、学年の実態に応じて、できていない学年もある。活用事例の研修などを進め、取り組みを強化していきたい。保健の「手洗い」に関しては、概ね９０％を超えており、定着したと考える。

学校の年度目標

○学習者用端末でスクールライフノートの「心の天気」を１日１回以上入力し、児童の心の状態や日々の生活の状態を可視化し、児童理解を深め、指導に生かす。

⇒ 未達成 入力率は、（７１．９％→８０．９％）＋９．０

○令和５年度末校内調査の教育アンケート項目「進んで読書をしている」に、肯定的に答える児童の割合を６０％以上にする。

⇒ 未達成（６２．２％→５４．８％→５９．３％）＋４．５

○教育アンケート項目「学校は、家庭・地域（見守り活動、読書活動支援、地域交流行事等）等と連携・協働した教育を推進している。」に肯定的に答える保護者の割合を８５％以上にする。

⇒ 達成（９５．３％→９３．４％→８７．４％）－６．０

「心の天気」に関しては、子どもの安心・安全のため、継続した取り組みを進める。読書に関しては、読書通帳、読み聞かせ等の取り組みを進めた結果、４．５ポイントの向上があった。引き続き、「ほっと（本と）スペース」の活用を進め、読書環境の充実に努めたい。ホームページに関しても保護者メールと連携し、わかりやすいホームページを目指し、情報発信を進めていく。

大阪市立矢田北小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標】安全・安心な教育の推進</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <p>○令和5年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を <u>87%以上</u>にする。</p> <p>R4 74.5% ⇒ R5 <u>80.8% (+6.8)</u></p> <p>○令和5年度の校内調査において、不登校児童の在籍比率を <u>前年度より減少</u>させる。</p> <p>R4 4.17% ⇒ R5 <u>8.97% (+4.90)</u></p> <p>○令和5年度の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を <u>増加</u>させる。</p> <p>R4 50% ⇒ R5 <u>40% (-10.0)</u></p> <p>学校の年度目標</p> <p>○令和5年度の校内調査の教育アンケート「楽しく学校に通っている」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合を <u>88%以上</u>にする。</p> <p>R4 84.7% ⇒ R5 <u>91% (+6.3)</u></p> <p>○令和5年度の校内調査の教育アンケート「学校のきまりを守っている」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合を <u>90%以上</u>にする。</p> <p>R4 91.9% ⇒ R5 <u>92.4% (+0.5)</u></p> <p>○令和5年度の校内調査の教育アンケート「相手の気持ちを考えて行動できる」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合を <u>86%以上</u>にする。</p> <p>R4 85.4% ⇒ R5 <u>84.7% (-0.7)</u></p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>道徳教育や人権教育（外国人教育、特別支援教育、平和教育など）の充実を図り、互いの考えを交流し合い、命や人権の尊さについて考え、良好な人間関係を目指そうとする集団を育成する。</p> <p style="text-align: right;">(道徳教育・人権を尊重する教育・インクルーシブ教育・多文化共生教育の推進)</p> <hr/> <p>指標 (1)年間を通して道徳教育を行い、道徳的価値理解だけでなく自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考える学習を通して道徳的な態度を養う。</p> <p>(2)年間を通じて行われる平和学習、課内実践（民族講師・老師などとの交流）、特別支援理解教育などを実施し、各学年が学び取ったことを交流する場を<u>年に一回以上</u>設定する。</p> <p>(3)人権学習週間を設定し、「ひと・いのち（ひと・ぬくもり）（ひと・つながり）」などを活用した授業を<u>年に一回以上</u>実施する。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>毎月生活目標を設定し、各学期に強調週間を設け、全教職員で学校のきまりを指導する。</p> <p style="text-align: right;">(問題行動への対応・安全教育の推進)</p> <hr/> <p>指標 ・<u>毎月</u>生活目標を設定し、<u>各学期</u>に強調週間を設け、全教職員で学校のきまりを指導する。グリーティングメダル等を活用する。 (特に、<u>あいさつを重視</u>して指導する。)</p>	A
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>様々な特別活動の場で、児童一人ひとりが活躍できる場を設定する。</p> <p style="text-align: right;">(キャリア教育の充実)</p> <hr/> <p>指標 ・各学級、学校行事、児童会活動、集会活動などで、発表する場を設定する。</p>	B
<p>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>子どもの発達段階に応じてキャリア教育を推進し、各学年で文化的・体験的な学習を実施する。</p> <p style="text-align: right;">(キャリア教育の充実)</p> <hr/> <p>指標 (1)各教科において<u>年間</u>通じてキャリア教育を行っていく。</p> <p>(2)各学年が体験活動を計画・実施し、全校児童でも芸術活動を実施する。 (各学年の社会見学、キッザニア甲子園での職業体験、外部講師を招いての出前授業、劇や音楽鑑賞など)</p>	B

取組内容⑤【基本的な方向！安全・安心な教育環境の実現】

「心の天気」「相談機能」等を活用し、児童の実態把握に努め、指導に生かす。

(問題行動への対応・安全教育の推進)

指標

・令和5年度の校内調査の教育アンケート「楽しく学校に通っている」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合を 88%以上にする。

R4 84.7% ⇒ R5 91%

A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

全市共通目標（小学校）

- 令和5年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は80.8%であり、**目標を達成できなかった。(-6.2%)**
- 令和5年度の校内調査において、不登校児童の在籍比率が8.97%であり、前年度より減少させるという**目標を達成できなかった。(+4.9%)**
- 令和5年度の校内調査において、今年度の不登校児童の改善の割合が40%であり、前年度より増加させるという**目標を達成できなかった。(-10%)**

学校の年度目標

- 令和5年度の校内調査の教育アンケート「楽しく学校に通っている」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合は91%であり、**目標を達成した。(+3%)**
- 令和5年度の校内調査の教育アンケート「学校のきまりを守っている」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合は92.4%であり、**目標を達成した。(+2.4%)**
- 令和5年度の校内調査の教育アンケート「相手の気持ちを考えて行動できる」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合は84.7%であり、**目標を達成できなかった。(-1.3%)**

「取組内容」

取組①

- (1) ・計画通り進めることができた。
 - ・道徳においては学年の段階に合わせてワークシートを用意し、またタブレットのアンケート機能を利用し、多面的・多角的に考えられるように実施した。
 - ・計画通り進めることができた。
 - ・平和学習、特別支援理解教育(コーディネーターによる発達障がい理解教育)、障がい者支援施設赤おに作業所との交流、各学年民族講師による課内実践に取り組むことができた。
 - ・民族学級発表会では、全学年の課内実践の成果を発表することができた。
 - ・WCCの活動についても全学年そろっての学習を行った。
 - ・外部講師を招いての「中国」「フィリピン」「ベトナム」の国について学習することができた。
 - ・親子料理会も実施することができた。
 - ・夏休みには平和集会を行い、各学年の学習を発表し、他学年に伝えることができた。
- (2) 指導計画をもとに、「ひと・いのち」等を活用することができた。

取組②

- ・年３回の強調週間を設定した。
- ・グリーティングカードを活用し、９２％の児童が、「あいさつができた」と回答する結果となった。児童会によるあいさつ活動によって、しっかりとあいさつを返す児童が増えたことも要因といえる。
- ・強調週間の期間だけではなく、自分から進んであいさつができる児童が増え、外部のお客さんに対してもあいさつできる児童が増えてきている。
- ・染髪やピアスなどの課題も増えつつある。

取組③

- ・全学年集合し、さまざまな集会を複数回実施することができた。
- ・１年生による保幼小連携や、２年生による１年生への秋祭り、お芋パーティなども実施することができた。
- ・健康委員会による「学校生活について（危険な行動）」ビデオの放送も実施できた。

取組④

- (1) 各教科や学年の年間指導計画より、ICT も活用しながら出前授業や体験学習を通すことで、キャリア教育につながる内容に着目して取り組むことができた。
- (2) 全学年が体験活動を計画や実施し、全校児童でも芸術活動を実施することができた。
浄水場見学（４年）、林間学習（５年）、修学旅行（６年）、遠足・運動会・人権学習発表会（全学年）、芸術鑑賞ダンス・車いすダンス（全）、社会見学（３年・車いす体験、あべのタスカル）、社会見学（４年・科学館）、社会見学（５年・コリアタウン）、社会見学（６年・ピースおおさか）、スポーツ交歓会（６年）職業体験（６年・キッズニア）

取組⑤

- ・「心の天気」「相談機能」等を活用し、児童の実態把握に努め、指導に生かすことができた。

次年度への改善点

全市共通目標（小学校）

- ・アンケート項目の「どちらかといえばそう思う」と回答する児童の割合が多いため、いじめを考える日だけではなく、人権週間等で学校全体として声かけをすると同時に、学年の実態に応じた授業を行っていく。
- ・不登校の改善はみられている。しかし、登校できるようになってからも、保護者との連携を図り、心的ケアなどを継続して行っていく必要がある。
- ・児童一人ひとりが抱える悩みや問題に対して、寄り添いながら必要に応じて支援を続けることで、不登校の未然防止にも努めていきたい。

学校の年度目標

- ・コロナ禍による活動の制限も解除され、様々な取り組みを通して、昨年度からの改善がみられる結果となった。しかし、経年テストの結果より、学力に関して子どもたちの抱える不安感があることも考えられる。
- ・今後も行事や普段の授業から、子どもたちが安心や安全な学校生活を送れるように、教職員が一丸となり取り組む必要がある。
- ・引き続き、教職員間で校内での望ましい行動を共有し、実行できている児童を認め、声かけを続けていくことで、誰もが校内できまりを守れるように努めていく。
- ・次年度以降、異学年交流やペア学年活動を活発にし、学級だけではなく学校全体として、相手の気持ちを考え、行動できる場面を作っていく。

「取組内容」

取組①

- ・道徳の授業や課内実践、人権教育などを通して、今後も命や人権の尊さについて指導を継続していく。
- ・人権教育の取り組みを1～6年生で系統立てて行っていくとともに、人権週間で取り組む内容についても年度初めに話し合い、計画的に取り組んでいく。
- ・国際クラブに関しては、児童にルーツのある国についての資料を整備し、充実を図る。

取組②

- ・グリーティングカードの活用の仕方、シールの配り方について、今後様々な対応が考えられる。
- ・児童の実態に合わせて、掲示の仕方や声かけの仕方等について職員間で話し合いを行い、児童の望ましい姿が少しでも多く見られるように、今後も取り組みを進めていきたい。

取組③④

- ・児童にとって有意義な時間になるように行事を精査や検討し、無理のない範囲で実施できるように取り組んでいく必要がある。

取組⑤

- ・「心の天気」や「相談機能」だけではなく、引き続き毎月の「生活指導・人権部会」や、職員会議、学年部会等で児童の環境や様子の変化を話し合う場を設け、共有できるようにしていく。
- ・必要に応じて関係諸機関への連携を図り、途切れることのない継続した指導につなげていきたい。

大阪市立矢田北小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小学校）</p> <p>○令和5年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を <u>40%以上</u>にする。 R4 32.0% ⇒ R5 <u>42.5% (+10.5)</u></p> <p>○令和5年度の小学校学力経年調査における国語及び算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より <u>0.05ポイント向上</u>させる。 R4 未達成⇒ R5 <u>達成</u></p> <p>○令和5年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を <u>80%以上</u>にする。 R4 70.4% ⇒ R5 <u>69.7% (-0.07)</u></p> <p>○令和5年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を <u>60%以上</u>にする。 R4 49.1% ⇒ R5 <u>80.8% (+31.7)</u></p> <p>○令和5年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を <u>75%以上</u>にする。 R4 73.5%⇒ R5 <u>69.7% (-3.8)</u></p> <p>学校の年度目標</p> <p>○令和5年度の小学校学力経年調査において、国語と算数の全24観点のうち、<u>10観点</u>が大阪市の平均を上回るようにする。 R4 8観点 ⇒ R5 <u>6観点 (-2)</u></p> <p>○教育アンケートの「外で遊んだり、運動したりすることが好きである」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合を <u>90%以上</u>にする。 R4 91.9% ⇒ R5 <u>89.0% (-2.9)</u></p>	B

<p>○「健康週間」を実施し、健康チェックの「せっけんで手を洗った」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合を1学期のアンケートの結果より <u>2%向上</u>させる。</p> <p>1学期 94.7% ⇒ 2学期 <u>95.1% (+0.4)</u></p>	
--	--

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数科を研究教科とし、全学年で授業研究および協議会を実施する。 ・課題に向き合う力の定着、自分の考えを表現する力をつけるための指導法についての研究を推進する。 ・ポジティブ行動支援を意識した授業づくりも進めていく。 <p style="text-align: center;">(言語活動の充実(思考力・判断力・表現力の育成))</p> <hr/> <p>指標 ・各学年 <u>1回以上</u>の研究授業、討議会の実施、外部講師による全体研修会を <u>5回以上</u>実施する。</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力向上】</p> <p>学力向上の時間を設定し、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。</p> <p style="text-align: center;">(「主体的・対話的で深い学び」の推進・個別支援の充実)</p> <hr/> <p>指標 ・朝に <u>10分間</u>の矢田北タイムを設定し、漢字タイムや読書タイム、計算タイムを実施する。</p> <p>・学習支援ツール navima (ナビマ) の活用を進める。</p>	A
<p>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力向上】</p> <p>家庭学習に取り組む児童を増やすための工夫を行う。</p> <p style="text-align: center;">(「主体的・対話的で深い学び」の推進・個別支援の充実)</p> <hr/> <p>指標 ・低、中、高学年向けの家庭学習の手引きを配付する。</p> <p>・日記学習や自主学習などの家庭学習を、<u>月2回以上</u>取り組む。</p>	B
<p>取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力向上】</p> <p>全校で外国語教育を推進し、コミュニケーション能力をつける。</p> <p style="text-align: center;">(英語教育の強化)</p> <hr/> <p>指標 ・外国語のモジュール活動 (<u>10分×2回</u>)を設定し、全学年で外国語活動を実施する。</p> <p>・校内研修会を<u>年1回以上</u>実施し、効果的な授業実践を行う。</p>	B

<p>取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>体育科の授業や体育的行事を通して、運動する喜びを実感させる。</p> <p style="text-align: right;">(体力・運動能力向上のための取組の推進)</p> <hr/> <p>指標 ・ なわとび集会やランランタイム等、全校児童が楽しく参加できる体育的行事を実施する。</p> <p>・ スポーツ「夢・事業」など、外部講師を招いた体育授業を<u>年2回以上</u>行い、生涯スポーツへつなげる。</p>	A
<p>取組内容⑥【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>健康な身体をつくるために、規則正しい生活習慣を身につける。</p> <p style="text-align: right;">(健康教育・食育の推進)</p> <hr/> <p>指標 ・ 「けがの防止」についての啓発（けがマップ等）を行い、校内での「打撲」（353件）や「すりきず」（287件）の件数を、昨年度より<u>1割減少</u>させる。</p> <p style="padding-left: 20px;">R4 640件 ⇒ R5 <u>466件（-2.7割）</u></p> <p>・ 給食後の「ぶくぶくうがい」や「歯」に関する授業の実施、歯科受診の啓蒙等を進め、<u>虫歯率を減少</u>させる。</p> <p style="padding-left: 20px;">R4 44%（34人）⇒ R5 <u>16%（24人）（-28）</u></p> <p>・ 健康アンケートを実施し、1学期の結果よりも<u>向上</u>させる。</p> <p style="padding-left: 20px;"><u>2学期に2項目改善</u></p>	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>全市共通目標（小学校）</p> <p>○令和5年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は42.5%であり、目標を達成した。（+2.5%）</p> <p>○令和5年度の小学校学力経年調査における国語及び算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較比較し、いずれの学年も前年度より0.05ポイント向上させるという目標は、達成できなかった。</p> <p>○令和5年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合は69.7%であり、目標を達成できなかった。（-10.3%）</p> <p>○令和5年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」の項目に対して、肯定的な「思う」と回答する児童の割合は80.8%であり、目標を大きく達成した。（+20.8%）</p> <p>○令和5年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は69.7%であり、目標を達成できなかった。（-5.3%）</p>	

学校の年度目標

- 令和5年度の小学校学力経年調査の結果において、国語と算数の全24観点のうち、上回った項目は6項目であり、**目標を達成できなかった。(-2項目)**。
- 教育アンケートの「外で遊んだり、運動したりすることが好きである」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合は89%であり、**目標を達成できなかった。(-1%)**
- 「健康週間」を実施し、健康チェックの「せっけんで手を洗った」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合は95.1%であり、**目標を達成した。(1学期より+0.4%)**

「取組内容」

取組①

- ・本年度は研究教科を算数とし、児童が算数の課題に向き合い、自分の考えを表現する力をつけることを目指し、全職員で授業研究に取り組んだ。
- ・全学年が研究授業を行い、事前検討会や授業後の討議会を行い、研究を深めてきた。
- ・ポジティブ行動支援を意識した授業づくりを進めるため、外部講師による研修を4回実施した。

取組②

- ・毎週火曜日を「矢田北タイム」とし、漢字検定に向けた漢字学習を実施した。
- ・学びコラボレーターが採点し、児童にフィードバックをした。
- ・木曜日には、児童集会のない時には読書タイムを実施した。
- ・読書は、図書の時間だけではなく、学習の終わりの時間に読書をする時間を設定した。
- ・「矢田北本の木」や読書通帳の取り組みをし、読んだ本の記録や振り返りをした。
- ・金曜日には、計算タイムを設定し、学習支援ツール navima（ナビマ）に取り組んだ。
特に、前学年の算数科の計算領域を中心に取り組んだ。
- ・年度の後半には「スタディサブリ」が導入され、児童が学習に以前より取り組みやすくなった。

取組③

- ・家庭学習の手引きを全学年に配布した。
- ・日記や持ち帰った個人端末での家庭学習に取り組んだ。

取組④

- ・年間指導計画に沿って実施した。
- ・朝の校内放送や階段に英語を掲示することで、外国語を身近に感じる取り組みを実施した。

取組⑤

- ・なわとび集会では、運動委員会によるお手本を見て練習に取り組み、習得した技をなわとびカードに記録した。
- ・ランランタイムでは、カードに走った周数を記録し、取り組んだ。
- ・スポーツ「夢・事業」など外部講師を招いた体育授業を多く取り入れた。例えば、ラグビーやティールボールでは、講師のプロ選手から普段聞けないお話を聞く機会があり、児童がスポーツにより関心をもつことができた。

取組⑥

- ・健康について、保健指導を全学年で実施した。
- ・ヒヤリハットが起りやすい校内のポイントにはイラスト付きコーンを置き、校内の安全を意識するようにした。
- ・ポスターや掲示物による「健康」「けがの防止」についての啓発を行った。
- ・校内で起きた「打撲」や「すりきず」においては、ともに大幅に減少している。
(2月19日現在)
- ・健康アンケートを2回実施し、「ぶくぶくうがいをした」の項目以外は目標を上回ることができた。

次年度への改善点

全市共通目標(小学校)

- ・日々の授業の中で児童が苦手とする観点を中心に、書く活動や自分の思いを伝えていく活動等を取り入れていく必要がある。
- ・来年度も各教員の裁量ではなく、全教員の共通理解を図り、各学年に必要な力を身につけられるように取り組み、系統立てた指導の工夫が必要である。

学校の年度目標

- ・今年度における各学年児童の課題を分析し、分析内容を踏まえて、授業や学習に取り組む。
- ・学習課題の最終的な到達点を全教職員で共有し、学力向上委員会を中心に児童が問題解決に向かっていく取り組みを学年部や学校全体で進めていく。
- ・「外で遊んだり、運動したりすることが好きである」と答える児童の割合は、昨年度より1.9%下回った。今後も引き続き、外遊びへの呼びかけを続けることや、運動する場を設定する。
- ・健康アンケートの1回目や2回目の結果から、児童の健康や安全への意識は高いと考える。
- ・食後のぶくぶくうがいを増やすため、ぶくぶくうがいの目的を児童に周知し、取り組みを進められるようにする。引き続き、次年度も健康への呼びかけを続けていく。

「取組内容」

取組①

- ・次年度も引き続き算数を研究教科にし、児童が課題に向き合い、自ら進んで考えたことや話し合ったこと、解決したことを表現したいと思える力をもてる取り組みを研究する。

取組②

- ・児童に合ったプリントを作成して取り組み、学習端末を活用して基礎・基本の学力の定着に努める。

取組③

- ・家庭学習の取り組み方の啓発を続けていく。次年度も家庭学習の手引きを配布し、児童が自ら学習に取り組むことができるよう支援する。

取組④

- ・外国語活動で楽しいと感じられるようにするためには、どのようにしていけばよいのかを引き続き検討していく。例えば、「外国語で挨拶をする」「朝の時間や給食時に外国語の歌を流す」等、外国語を身近に触れる機会を検討し、取り組んでいく。

取組⑤

- ・スポーツ「夢・事業」等では、児童の力に今何が必要かを検討し、取り組みを精査する。また、本年度は低学年による取り組みが少なかったので、今後は学年のバランスと学年に合った取り組みを行っていく。

取組⑥

- ・引き続き、よりよい生活習慣の啓発を推進していく。(学校の年度目標と重なっている)

大阪市立矢田北小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標（小学校）</p> <p>○学習者用端末を活用した家庭学習を<u>週1回以上</u>実施し、ICTを活用した教育を推進する。 R4 達成⇒ R5 <u>達成</u></p> <p>○「ゆとりの日」を<u>週に1回</u>設定・実施し、教職員の働き方改革を進める。 R4 達成 ⇒ R5 <u>達成</u></p> <p>学校の年度目標</p> <p>○学習者用端末でスクールライフノートの「心の天気」を<u>1日1回以上入力</u>し、児童の心の状態や日々の生活の状態を可視化し、児童理解を深め、指導に生かす。 R4 使用率 71.9% ⇒ R5 <u>使用率 80.9% (+9.0)</u></p> <p>○令和5年度の校内調査の学校アンケート「学校や家ですすんで読書をしている」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合を<u>60%以上</u>にする。 R4 54.8% ⇒ R5 <u>59.3% (+4.1)</u></p> <p>○令和5年度の校内調査の教育アンケート「学校は、家庭や地域と連携・協働した教育を推進している。」の項目に対して、肯定的に答える保護者の割合を<u>85%以上</u>にする。 R4 93.4% ⇒ R5 <u>87.4% (-6.0)</u></p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6、教育DX(デジタルトランスフォーメーションの推進)】</p> <p>ICTを活用した教育やプログラミング教育に取り組み児童の思考力・表現力を育てる。 (ICTを活用した教育の推進)</p> <p>指標 ・タブレット端末等に関する教育アンケートにおいて肯定的回答の割合を<u>80%以上</u>とする。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向6、教育DX(デジタルトランスフォーメーションの推進)】</p> <p>スクールライフノートの「心の天気」やデジタルドリルも活用し、児童のタブレット使用率を向上させる。 (ICTを活用した教育の推進)</p> <p>指標 ・「心の天気」活用率を<u>100%</u>とする。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>金曜日を「ゆとりの日」に設定し、原則 18:00 退勤を実施する。 (働き方改革の推進)</p> <p>指標 ・令和5年度の校内調査の学校教育アンケート「ゆとりの日に18時退勤ができるように努めている。」の項目に対して、肯定的に答える教職員の割合を<u>80%以上</u>とする。</p>	A
<p>取組内容④【基本的な方向8、生涯学習の支援】</p> <p>図書館開放等、学校司書や読み聞かせボランティアとの連携のもと、意欲をもって読書に親しむ環境を整える。(読書カードや読み聞かせ会、アニメーション等の読書の楽しさを伝える取り組みを進める。) (学校図書館の活性化)</p> <p>指標 ・図書館や「ほっとスペース」の利用を増やし、令和5年度の校内調査の学校教育アンケート「学校や家ですすんで読書をしている」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合を<u>60%以上</u>にする。</p>	B
<p>取組内容⑤【基本的な方向9、家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <p>・学校・学年だよりやホームページ等を活用し、家庭連絡等で児童の活動や学校の様子を伝え、連携を深める。 ・地域行事の交流活動を通して、自他を思いやる気持ちを育てる。 (地域学校協働活動の推進)</p> <p>指標 ・令和5年度の校内調査の教育アンケート「学校は、家庭や地域と連携・協働した教育を推進している。」の項目に対して、肯定的に答える保護者の割合を<u>85%以上</u>にする。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

全市共通目標(小学校)

- 学習端末を活用した家庭学習に関しては、週1回以上宿題を出すことはできず、**目標を達成できなかった**。しかし、ICTを活用した取り組みは、教員の研究により昨年以上に増加している。
- ゆとりの日は、毎週金曜日の週1回設定はできており、**目標を達成した**。教員自身の意識も高い数値を維持できているが、18時退勤ができていない教員もいる。

学校の年度目標

- 多くの児童がスクールライフノートの「心の天気」を1日1回以上入力することができており、**目標を達成した**。天気の内容によって教員の声掛けも行っており、上手く活用できている。
- 読書通帳や読み聞かせ、「ほっとスペース」の活用等、様々な取り組みにより、令和5年度の校内調査の学校アンケート「学校や家ですすんで読書をしている」の項目に対して、肯定的に答える児童は59.3%であり、**目標を達成できなかった。(-0.07)**

「取組内容」

取組①

- ・ICTの活用に関しては、各学級で積極的に行われており、教育アンケートでは82.6%と高い数値を維持できている。

取組②

- ・現状の心の天気の入力率は80.9%であり、昨年の71.9%より大幅に上回った。
- ・行事や欠席、対応などによりどうしても入力できない日もあり、指標の100%の到達には現実的に難しいと考えられる。

取組③

- ・ゆとりの日の設定はされているが、教材研究や電話対応等により時間までの退勤が難しい場合がある。

取組④

- ・図書館開放や委員会の取り組み、読み聞かせ等、図書につながる活動をたくさん行うことができた。

取組⑤

- ・HPの更新や児童欠席アプリ「ミマモルメ」の積極的な活用ができた。
- ・令和5年度の校内調査の教育アンケート「学校は、家庭や地域と連携・協働した教育を推進している。」の項目に対して、肯定的に答える保護者の割合は87.4%であり、**目標を達成した。(+2.4)**

次年度への改善点

全市共通目標(小学校)

- ・次年度は週一回以上学習端末を活用した宿題ができるように、年間計画を作成していく。
- ・ゆとりの日の設定は継続していき、SSS（スクールサポートスタッフ）などを有効的に活用していき、教職員の負担軽減につなげる。

学校の年度目標

- ・「心の天気」の入力に関して、朝や昼の時間などを用い、学級で必ず入力ができる習慣を身につけていく。
- ・「ほっとスペース」の活用を増やすために、場所の移動や増設を検討する。

「取組内容」

取組①

- ・本年度は、学習支援アプリ「スタディサプリ」や「桃太郎電鉄」等の導入ができた。
- ・今後も児童が取り組める活動などを探求し、継続的に指導していく必要がある。

取組②

- ・指標（「心の天気」活用率を100%）の変更が必要である。
- ・各教員の意識も高くなってきているが、学級によってまだばらつきがあるので、継続的に指導が必要である。

取組③

- ・ゆとりの日だけではなく、会議や行事の精査が必要である。

取組④

- ・黄色階段の使用がなくなったことにより、ほっとスペースの活用があまりできていないことが現状である。
- ・ホットスペース自体の場所の変更を検討する必要がある。

取組⑤

- ・今後も継続して、HPの更新や児童欠席アプリ「ミマモルメ」の積極的な活用に取り組んでいく。